

# BPW Newsletter JAPAN

Official Newsletter of National Federation of Business and Professional Women's Clubs of JAPAN



2007.11.10

Vol.90

Web版

## CONTENTS

### 巻頭メッセージ

「BPW 会長として、Professional Womanとして」黒崎伸子会長  
「ワーク・ライフ・バランスシンポジウム」開催開始

BPWI ニュースレター2007年  
第2号抜粋

国連 NGO 国内婦人委員会・  
創立50周年記念シンポジウム  
第62回国連総会第3委員会・  
中間報告(1)

国連より

日本 BPW 連合会会員アンケート  
日本 BPW 連合会50周年記念  
福岡大会・第43回総会ご案内  
叙勲のお知らせ

**緊急特報！長崎で起きた性的暴行事件**

編集後記

日本BPW連合会ニュースレター

発行人：黒崎伸子 広報委員会編集

日本 BPW 連合会 事務局

〒160-0023

東京都新宿区西新宿 3-5-12-116

TEL.03-3348-7644

FAX.03-3348-7648

E-mail=pub@bpw-japan.com

ホームページ URL

http://www.bpw-japan.com

## BPW 会長として、Professional Woman として

連合会会長 黒崎伸子

長い夏が終わってやっと秋らしくなってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。私は「国境なき医師団」より外科医として、7月半ばからスリランカで活動。8月15日に帰国しましたが、数日後に外科医の空白が2週間あるとの要請で、8月24日～9月12日はナイジェリアで活動しました。2回目のアフリカでしたが、ナイジェリアはアフリカで2番目に大きい国・石油などの資源で豊かな国でありながら、貧困層の問題や高等教育を受けた人でも、その4人に1人が失業者という格差や民族間紛争で外傷・戦傷の絶えない街で働き、いろいろと学ぶことができました。

この約2ヶ月間の海外滞在で、会長として十分に任を果たせなかったこととお詫びいたします。さて、内閣府男女共同参画局の補助金を受けての「ワーク・ライフ・バランス」全国リレーシンポジウムについても、他の連合会役員の力と各クラブの協力で、この不在中に国内4ヶ所での実施が決まり、大変嬉しく思っています。さらに、中部ブロックでの開催も決まりました。これは、連合会が久しぶりに全国規模で取り組む事業ですので、5会場のうちのいずれかに、ぜひ足を運んで下さい。

さて、すでにご存知の方も多いとは思いますが、このたび、第62回国連総会日本政府代表団顧問に任命され、10月7日から11月22日の7週間、ニューヨークに滞在しています。これは、日本 BPW 連合会が所属する国連 NGO 国内婦人委員会の推薦によって実現したものです。日本は1956年12月国際連合に加盟しましたが、市川房枝さんたちが当時の重光外相に要望し、翌1957年から国連総会に民間女性を政府代表団に登用してきました。そして、同年、国連経済社会理事会に諮問的地位をもつ国際組織に加盟している日本の女性団体が結成したのが、国連 NGO 国内婦人委員会です。今年は、この国連 NGO 国内婦人委員会の創立50周年でもあります。これまで、緒方貞子さんをはじめ、大変優秀な女性たちがこの任務を果たしてこられ、私のような者で大丈夫かどうか、不安ではあります。ただ、50年のうち日本 BPW 連合会から送り出したのは、故・高橋展子さん(元デンマーク大使)だけでした。来年は、日本 BPW 連合会も50周年を迎えます。連合会会長として、今年50歳になる私がこの任務をお引き受けできることは、大変光栄なことでもあり、これからのBPWの発展の契機にもなるのではないかと考えております。現地では、社会・人道(人権)・文化に関する問題を討議する第3委員会に出席し、日本政府としての発言などをする役目です。また不在となりますが、また今後の連合会活動に役立つはずで、どうぞご理解の程よろしくお願いたします。

**「ワーク・ライフ・バランス シンポジウム」開催、始まる！**

内閣府と BPW 連合会の共催で全国展開していく「ワーク・ライフ・バランス シンポジウム」が、山形(10/21 於:山形県男女共同参画センター)と東京(11/10 於:東京都中小企業振興公社)で開催されました。今後、長岡(11/17 於:長岡商工会議所)、名古屋(12/2 於:中日パレス)、長崎(1/20 於:長崎市男女共同参画推進センター)での開催を予定しております。全会場 13:30~16:30 の開催です。詳しくはBPW連合会ホームページ「最新情報」をご覧ください。



写真1: in 山形のパネリストのみなさん



写真2: in 東京のパネリストのみなさん



写真3: in 東京の会場

**BPWI ニュースレター2007年第2号抜粋**

BPWI のニュースレター2007 年第 2 号が 10 月に発行されました。以下、記事を抜粋して日本語で掲載いたします。

(翻訳: 国際委員長山野幸子)

**「国際移住がかかえる問題」**

Dr. Chonchanok Viravan (BPWI 会長)

ベルギーのブリュッセルで移住と開発国際フォーラムが開催された 2007 年 7 月 9 日、会議場を出ると外は雨が降っていました。ほとんどの参加者は、雨に濡れながらバスのほうに歩いていきました。傘を持っていた参加者はごくわずかで私はそのうちのひとりでした。

BPW は、21 世紀の変化する状況と様々な問題に向けて組織レベルで準備をしなければなりません。私達は組織の見直しと改革に取り組んできましたが、その目標には、BPW は世界の変化のなかで発展し続けるということも含まれています。国際移住の問題は、BPW が明らかに“傘”を準備しなければならない問題のひとつです。

会員を新たに勧誘したり定着させるためにいろいろな方策を考えると、あるいは、女性が十分に能力を発揮できるための活動を展開するとき、私達は、国際移住がもたらす影響について心に留めておく必要があります。2006 年には、移住者の約半分(9,500 万人以上)は女性でした。グローバル化が進み、多国籍企業が出

現し、先進国からの熟練労働者への需要が増大しました。その移住者の多くは、優れた技能を備え高い教育を受けています。しかしながら、新しい社会へ融合しようとする移住者にとって障害が立ちはだかったり、あるいは、自分達の権利が脅かされたりしています。とりわけ、女性は、女性であること、そして、移住者であることの二重の差別に苦しんでいます。気候変動や自然災害、そして、水不足などの問題によって、21 世紀の移住はますます困難になっていくと思われませんが、私達が、十分な準備を行ってこの問題に取り組みれば、失敗することなく必ずや目的を達成することができるはずで

興味深いことに、カンボジアの新しい BPW クラブや BPW クラブに発展しつつあるベルギーのグループ、または、ニュージーランドで一番発展しているクラブのメンバーの多くは、国籍を捨てた人々や移住者で占められています。国際移住の問題は、重要な問題で、2007 年 10 月 18-19 日スペインのバレンシアで開かれる BPW の見直しと改革に関する公聴会で、会員数の拡大と確保に関するテーマの中で特に話し合われる予定です。詳細をお知りになりたい方は、[www.bpw-international.org](http://www.bpw-international.org) にアクセスして下さい。そこには、ポートダグラスの APEC

女性指導者ネットワークでこの問題について私が行った講演やベルギー、ブリュッセルで開催された**移住と開発国際フォーラム**の内容が掲載されています。

XXVIBPW 国際会議も、なんとメキシコのメキシコ・シティーに移動することになりました！

### 「国連～UNESCO に送る各国 BPW 代表者推薦の呼びかけ」

Annarosa Colanero (第一副会長)

2007年3月にUNESCOは、BPWIのSextennial報告書を出版しました。これは、BPWIが6年ごとにUNESCO総会に提出を義務付けられている報告書です。そのなかで、2001-2006年にかけて国際的な非政府組織(NGOs)によってUNESCOが展開する活動に対する貢献度やUNESCOと活動協力関係にあるNGO組織のUNESCOとの協力の結果を報告しなければなりません。この報告書は、過去20年間に急速な変化をとげた市民社会に対する示唆に富む考察から始まり、この変化にともない、国際的な意志決定のしくみを改めるよう国連に提案しています。これは、ブラジル出身の前会長Fernando Henrique Cardosoが発表した2004年6月の報告書に基づいています。Dardoso氏は、この報告書の中で国連と市民社会の関係をより良くするために次の4つの行動をとるように推奨しています—外の世界に目を向けよう、多くの利害関係者と行動を共にしよう、地域を世界につなげよう、そして、21世紀に向けて民主主義が根付く一役を担おう—と。

歴史的にUNESCOは、NGO組織と特別な関係を維持し、その多くの組織と戦略的な協力関係を樹立してきました。また、報告書は、UNESCOとNGO組織との関係についての議論のなかで政府間組織の最近の活動についても注目しています。UNESCOは、1995年NGO組織との協力を強化するためにディレクティブ(指示文書)を採択しました。現在、UNESCOは、合計335のNGO組織—提携協力関係19、顧問協力関係67、活動協力関係249(BPWIを含む)とそれぞれ公的な関係を結んでいます。

NGO組織は、UNESCO国際NGO理事会の活性化を非常に高く評価しています。この理事会では、UNESCO

とNGO組織と、そして、UNESCOの目的達成のために機能している各地域・各国のUNESCO委員会との協力促進も議題のひとつとして取り上げられました。

BPWIは、各国からUNESCOへ代表者を推薦し、送るという好機に今恵まれています。

BPW支部とUNESCO事務局は以下の46カ国に置かれています(アルゼンチン、バングラデシュ、ベルギー、ベナン、ブルガリア、ブルキナ・ファソ、カメルーン、キプロス、チェコ共和国、コンゴ民主共和国、エクアドル、エジプト、エストニア、フランス、ドイツ、ガーナ、ハイチ、インド、アイルランド、イタリア、日本、ラトビア、メキシコ、モンゴル、モロッコ、ネパール、オランダ、ナイジェリア、パキスタン、パレスチナ自治政府、フィリピン、ポーランド、大韓民国、モルドバ共和国、ルーマニア、ロシア連邦、スペイン、スリランカ、スーダン、スイス、タイ、トーゴ、トリニダードトバゴ、ウクライナ、英国、アメリカ合衆国、ウルグアイ、ジンバブエ)。この国々の連合会やアソシエイトクラブがBPWIへの会費を改定した場合には新しい会費の額を、あるいは、UNESCOに送る代表者を推薦したいとお考えなら、2007年10月31日までに推薦する人の名前と住所、それに、プロフィール(履歴書)をpresidents.[office@bpw-international.org](mailto:office@bpw-international.org)までお知らせください。それによって、BPWIは、それぞれの地域や国に置かれているUNESCO事務局やUNESCOクラブ連合会、また、UNESCOクラブとの調整機関、そして、UNESCOセンターやUNESCO協会とも関係をうちたてることができるとともに、BPWの影響力をも増大させることができるからです。

### 「メンバーシップ～会員の定着」

Liz Benham(第二副会長・メンバーシップ議長)

私達は、トリプル・ワン・クラウンと共に新会員の拡大に取り組んできました。会員についての問題の中で、私が皆さんに喚起を促したいのは、クラブや連合を成功に導くために次の重要な秘訣は、いかに会員を定着させるかということです。皆さんは、どのような方法で、会員数の評価や見直し、また、その会員数を維持していますか？

ここに、皆さんが現在行っている方法を見直すときに

注意すべき5つのステップをご紹介します。

1. 会員からクラブを身近に感じてもらうためにどのようなコミュニケーションの方法をとっていますか？もし会員の誰かが、ミーティングに出席できなくてもその人たちがクラブとつながっていると思えるためにはどのようなコミュニケーションをとっていますか？ ニュースレターはどのくらいの頻度で発行していますか？それは郵送ですか、Eメールですか、それともその両方ですか？ウェブサイトは開設していますか？ [www.bpw-international.org](http://www.bpw-international.org)、や [www.bpw-europe.org](http://www.bpw-europe.org)、また [www.bpw-africa.org](http://www.bpw-africa.org)、そして [www.bpw-northamerica.org](http://www.bpw-northamerica.org) などの地域のホームページにリンクできますか？どのくらい多くの国際的な情報、国連のニュースや活動内容を会員と分かち合っていますか？
2. 会員をミーティングに惹きつけるためのプログラムとして教育や職業に関連するプログラムに関心を持ったことはありますか？定期的に会員は何に興味があるか調べたことはありますか？会員はBPWで何か素晴らしい経験をしていますか？
3. 会員は皆さんのクラブの何に価値を見出しているのでしょうか？時間とお金をクラブに提供しているわけですが会員にそれに見合う見返りはあるのでしょうか？会員は、自分達の技能や専門知識をクラブのために役立てていると思っていますか？また、会員同士でその技能や専門知識を分かち合っていますか？それを会員は評価し喜んでいますか？BPWクラブは本当に会員のビジネスや職業を啓発し支援していますか？会員全員にBPWの会員とビジネスのページにアクセスして登録するように勧めてみてください。これはとても有効な方法で英語、スペイン語、フランス語、イタリア語、ドイツ語、アラビア語の6カ国語で書かれています。メンバーへの登録は無料で、ビジネスへの登録は年間75ユーロです。  
[www.bpw-business.org](http://www.bpw-business.org) でチェックするか または、[www.bpw-international.org](http://www.bpw-international.org) のホームページにアクセスして下さい。
4. 新会員のフォローアップを行うために、あるいは、新会員が自分達は歓迎されていると思ってもらうため

に、また、少なくとも最初の6ヶ月間は新会員にBPWについて理解してもらうためにどのような方法をとっていますか？有効な方法としては、新会員教育のための完全プログラムのほかに私達のウェブサイト [www.bpw-international.org/services/benefits](http://www.bpw-international.org/services/benefits) からダウンロードできる4カ国で書かれた新会員のためのパンフレットがあります。

5. 最後に皆さんのクラブでは会員の誰もが漏れなく継続の手続きをしたかを確認するためにどのような方法をとっていますか？年間の会員定着率と増加率を分析していますか？そして、その結果を年間予算案に組み入れていますか？

皆さんやメンバーシップ委員会が、いかに会員を定着させるかという問題に取り組まれるとき、以上、私が申し上げたことがお役に立てばまことに幸いです。この5つのステップのなかで、皆さんのクラブや連合会から何が有効で何が有効でなかったかのフィードバックをいただけるなら大歓迎です。

最後に皆さんにとっても嬉しい報告があります。-BPWIが新たにスペイン、エジプト、さらに、スーダン3カ国の連合会を歓迎し承認しました。関係者の方々おめでとうございます。加えて、多くの新しいクラブが公式なクラブになるための手続きを進めています。会員数の問題は、会員全員の責任であるわけですが、それが、各地域でのBPWI 発展によって実証されていることは、私にとってこの上ない喜びです。

(以上、会長・副会長のメッセージ)

#### 「各国 BPWI 加盟団体ニュース(Affiliates News)」

##### ・BPW 日本 女性交流プログラム

日本 BPW は 1998 年以来女性交流プログラムの主な担い手の一つである外務省と協力をしている。2006年にはBPWJ会長の黒崎伸子氏率いる代表団がエジプト、ヨルダン、パレスチナ訪問をした。エジプトではBPW アフリカ地域コーディネータでエジプトの女子校教師のDr.Amany Asfourha に面会した。ヨルダンではどのようにして経済活動に女性を参加させていくかについて話し合

った。また、代表団は働く女性についてヨルダンの諸大学の女性達と見解を求め合った。エルサレムでは、企業家になりたいパレスチナ女性達やコココーラパレスチナの副会長である BPW パレスチナ会長とも意見交換をした。

#### ・BPW イギリス 全国会議

全国 BPW 会議は 2007 年 4 月 12-15 日英国エジンバラにて開催され、北部アイルランド、ロンドン、ノッティンガムからのヤング BPW 会員の参加を得、ヤング BPW UK パイロットプロジェクトが立ち上げられた。

ヤング BPW は 2008 年の会議に向けて万全の準備に取り掛かり、この会議はイギリスの 35 歳以下のメンバーなら誰でも参加できる。Nikki Bennett-Willetts は全国 BPW UK の会長として Ann Wiseall の後を引き継いだ。

#### ・BPW アルゼンチン 全国会議

2007 年 4 月 13、14 日アルゼンチンの Mar de Plata で全国会議を開いた。BPW Argentina 会長の Florinda D'Antoinio はこの大成功の会議進行を行った。

この会議は Chonchanok Viravan, Liz Benham, Maria Inez Bunning、メキシコ代表団などの外国人参加者の出席を得ることにより一層の効果があつた。

貿易 / 産業 / 生産連合における記者会見で活動が始まり歓迎夕食会となった。初日に BPW インターナショナル (BPWI) 当局は BPWI の改革計画を発表し、2 日目には BPW アルゼンチンが計画や成果についての発表をした。

#### ・ラテンアメリカ地域会議

第 5 回ラテンアメリカ地域会議が 2007 年 4 月 16 - 18 日チリ、サンチアゴにおいて開かれた。会議にはアルゼンチン、ブラジル、チリ、エクアドル、メキシコ、パナマ、ウルグアイ、からの BPW 会員が出席し、Chonchanok Viravan

会長、Liz Benham 副会長、元 BPW インターナショナル (BPWI) 会長 Antoinette Ruegg を含む数人の BPWI 役員からのスピーチがあつた。女性に対する暴力、環境、リーダーシップのニューディメンション、BPWI 改革、BPWI 会議などを含むいくつかのトピックが議論された。この地域には BPW 支部が発表した多くの興味深いプロジェクトがある。

・**ブラジル**: BPW ブラジル会長 Beatriz Fett はブラジルにおける女性への暴力、女性大臣のための特別政策を含んだ BPW ブラジルのプロジェクト、ブラジル中小企業支援業務に関する法令についてスピーチがあつた。

・**エクアドル**: 元 BPW エクアドル会長、Majura Guvara は、BPW エクアドル が女性が自分達で困難を乗り越えられるように支援したことについて発表した。

・**パナマ**: Albertina 会長はルツェルン会議で受賞した女性への貸付プロジェクトの進捗状況を報告した。

・**チリ**: Carmen Ojeda Caceres 会長を含む数人のスピーカーは教育、保健、農業、環境、芸術、文化関係のチリにおけるプロジェクトについての発表をした。全参加者はキャンドルライティングセレモニーが盛り込まれた Gala ディナーを楽しんだ。

なお、下記の URL にアクセスすると、2007 年第 2 号の全文だけでなく、バックナンバーも各国語でご覧になれます。

<http://www.bpw-international.org/publications/library-international-newsletters.htm>

\*\*\*\*\*

### 国連 NGO 国内婦人委員会・創立 50 周年記念シンポジウム: 10 月 13 日津田ホールにて開催

同委員会副委員長であり、連合会前会長の平松さんが映像「国連 NGO 国内婦人委員会活動の 50 年」のシナリオと構成を担当。その後シンポジウム「人間の安全保障を求めて」(シンポジスト: 上智大学教授 目黒依子氏・弁護士 林陽子氏・外務省国際協力局地球規模課題審議官 鶴岡公二氏) がありました。詳しくは次の会報をご覧ください。

**第 62 回国連総会第 3 委員会・中間報告(1)**

第 62 回国連総会日本政府代表顧問 黒崎 伸子  
(日本 BPW 連合会会長)



**第 62 回国連総会第 3 委員会・中間報告(1)**

このたび、国連NGO国内婦人委員会からご推薦を頂き、第 62 回国連総会第 3 委員会に日本政府顧問として 10 月 8 日より出席させていただいております。簡単ではありますが、この 2 週間の経過をご報告致します。

これまでに派遣された代表(または代表代理)の方々の報告を何度も聞かれた方にとっては、新しい事務総長の下で始まった今年の国連総会動向が気になると思われます。ただ、個人的には、まだ 2 週間というところで、やっと自分の立場が少しかつてきた段階ですので、今回は、議場の討議内容だけを簡単に報告させていただきます。

**1. 第 3 委員会について**

第 3 委員会の初日ということで、足木公使と岡垣 2 等書記官とともに参加。まず、初日は同委員会の議事進行承認において、国連人権高等弁務官による北 Uganda, Nepal の報告書を削除するかどうか...で紛糾しました。かなりの国がそれぞれの立場の発言をしましたが、結局 2 回の投票でこの 2 題は削除となりました。(第 3 委員会の会議で投票をすることは非常にまれだということです。代表席のボタン:赤-反対 against、緑-賛成 favor、黄-absteinの結果が北側の壁のボードにランプでつき、各国の賛否は全てわかります。また、今回は Uganda の問題について、アフリカ諸国が行動を共にしたために、多数決になると数の論理で、先進国側よりも多数意見が尊重される結果になった点は、注目に値する点でした。それまでの状況を理解できていない私にとっては、その報告書の内容もよくわからない

ままでの進行でしたが、UN の中でも、ある一国の非難をするような議案については受け入れられないということと、代表団は常に本国政府との討議を経て重要裁決をするために、その手続きの困難さを理解しました。

今年の議案としては、(1)社会開発、特に高齢者・障害者 (2)犯罪・薬物 (3)女性 (4)子ども (5)人権という要点で議事が進められる予定です。

**2. 社会開発・・・高齢者・障害者 (10月8～10日)**

Social development

- (a) Implementation of the outcome of the World Summit for Social Development and of the twenty-fourth special session of the General Assembly(A62/71-E/2007/46,A/62/122 and A/62/168)
- (b) Social development, including questions relating to the world social situation and to youth, aging, disabled person and the family (A/62/61/Add.1-E/2007/7/Add.1, A/62/132, A/62/154, A/62/157 and A/62/357)
- (c) Follow-up to the International Year of Older Persons : Second World Assembly on Ageing (A/62/131 and A/62/131/Corr.1)

高齢者・障害者に焦点をあてるテーマでしたが、先進国の多くは若い代表代理を送り込んで発言をさせ、これからの世界の将来にむけて、鍵を握るのは我々である！と熱く語らせた。退屈な同じような発言ばかりが続く中で、型にはまらない熱弁や情緒的表現は感動的ではありません。(日本人の若者にもあれくらい英語力のある人はいるのだろうなあと思いつつ、その発掘が難しいのかも知れない・・・と)

**Youth による発言者の要点**

- (ア) Millenium Development Goal(2005-2015)の実現の鍵を握るのは、Youth がどう関与するかである。
- (イ) 上記のためには、decision making にもっと Youth が関わる機会が必要。
- (ウ) 教育の機会均等や若者への雇用促進は貧困対策に直結する。

(工) Youth は語学・ICT 導入によって他世代より globalization が容易である。

などその他の社会開発における問題として、複数の国の statement で頻繁に指摘されたのは、移民、HIV/AIDS、貧困、食糧不足、失業(雇用対策 - 若者、高齢者、女性)、security(テロ、trafficking)などでした。これらの解決策として重要とされたのが、教育の普及(識字率改善、職業訓練など)や Microfinance 導入による収入の確保です。ただ、いくつかの国は、社会の基本単位である家族の弱体化が社会構造の不安定性を招く原因になっているという指摘をしており、どこかの国の論調を思い出しました。

また、このテーマの審議終了前に、イスラエルの発言に対し、パレスチナの答弁権行使が認められ、「イスラエルの排他的領土占有による被害はさらに膨大になっている。特に、子ども・若者・女性・高齢者などにおいては最貧層が拡大している。…」と。(ただ、その後の議論でも多くの国の発言の中にイスラエル非難が出てくることになり、国際社会におけるイスラエルの立場、パレスチナの立場とこれらの議論をさせる場となる国際連合の存在とは?と、未だに私自身の中では整理できないであります。…奇しくも、10月18日から第20回日本 - アラブ女性交流が始まり、日本代表団が各国を訪問している時期にあたります。)

### 3. 犯罪・薬物 Item #106 #107 (10月10~11日)

[106]Crime prevention and criminal justice (A/62/84,A/62/126,A/62/127,A/C.3/62/L.2 and A/C.3/62/L.3)

[107]International drug control (A/62/117)

最初に、UNODC からの報告“Architecture of A Safer World” (薬物、犯罪、テロのコントロール)があり、これに対する質疑応答に続いて、各国からの statement がありました。専門外の分野であるために、今後の国際社会がどこに焦点をあてて、対策をたてていくのが少し見えた程度しか把握できていません。

複数の国が共通して指摘した点は、以下の通りです。

・Transnational crime の傾向が進んでいることに対しては、国際的協力・ネットワークの強化・技術的サポート(研修)が必要であるが、同時に国内・地域にお

ける対策強化も必至。(すでに、複数の周辺国家で体制強化に取り組んでいる地域もある。)

- ・UNODC が国際的ネットワーク強化に務めているが、まだ地域格差があるという懸念。
- ・drug business と terrorism との関係への対策をどうするのか。さらには、human trafficking(女性・子供も含めて)や money laundering も terrorism に関与している。
- ・drug の原料のほとんどがアフガニスタンで栽培され、それが近隣国の国境を越えて、さらに terrorism の資金になっていることに対し、国際社会が強調して施行することが、安全・平和につながる。
- ・薬物、国際犯罪のいずれもインターネットを活用して拡大しており、この技術革新への対抗策が必要。
- ・drug は原料から売買される薬物に至る段階での、前駆体や化学構造類似物などの化学的調査も必要。

### 4. 女性の進出 Item #63 (10月15~17日)

Advancement of Women (A/62/38, A/62/177, A/62/202 and A/62/290)

(a) Advancement of Women (A/62/173, A/62/201 and A/62/188)

(b) Implementation of the outcome of the Fourth World Conference on Women and of the twenty-third special session of the General Assembly (A/62/178)

まず、Introductory Statement として、以下の5人からの発言がありました。

Assistant General Secretary-Ms.Rachel Mayanja:  
全ての領域における意思決定の場に女性を入れる。

また、これから取り組むべき5つの課題は、貧困・財政・気象変化・女性への暴力・紛争(後)

Director of DAW-Carolyn Hannan: ジェンダーに敏感な施策展開とジェンダーの視点での国際協調

UNIFEM-Joanne Sandler: 男女平等と女性のエンパワーメントの促進、効果的なアドボカシ - が必要。

Statement by Special Advisor : INSTRAW and CEDAW

その後の質疑応答は{キューバ・インド・シエラレオネ・スーダンからの質問…人権理事会と CEDAW などとの関係は?パレスチナ問題は?}でしたが、続く議論にも関わらせいか、明確な回答は得られないままでした。

続いて、3日間にわたり、各国からのstatementが続きました。各国の指摘する問題には、共通点もあれば、相違点もあり、また、他のテーマと overlap するような問題もあって、なかなか聞きごたえのある議論でした。ただ、大問題は日本の発言に対して、北朝鮮が従軍慰安婦問題を出してきたことで、答弁権を行使して、神余大使が発言されました。(詳細は、帰国後の報告会で、その後の他の会議の結果を含めて説明します。)

個人的な印象ですが、女性の政治参画はかなりの国で進んでおり、それに比べて日本のレベルの低さに唖然としました。例えば、ベトナム:国会には 45%女性、カタル:女性の政治参画を重視、ベトナム:国政・地方自治での女性の参画に努力(研修コース実施など)、その他意思決定の場へ女性の参画が進んでいると報告した国は、トルコ、インド、ラオス、ブルキナファソ、モザンビーク、アルメニア、サウジアラビア、トンガ、ネパール、リベリア、ジャマイカ、ベネズエラなどで、数字も明らかに 30~50%台でした。具体的に quota 制導入等で改善しているところでは、(国会議員レベル) アルゼンチン・エリトリア・パナマ-30%、UAE-25%、カザフスタン 15.8%、モンゴル等 / 地方自治体はより改善と。

その他の要点は、参考までに、

1) 途上国からの多かったコメントをあげると、 偏見・慣習の排除 貧困・食糧対策 地方・紛争・テロ地域や移民への対策 移民女性への差別・虐待・貧困対策 HIV/AIDS・マラリア・Tb による妊婦リスク対 FGM・早期結婚の禁止 解決策としての micro-credit の導入など。

2) 先進国からのサポートとしては、 教育レベルを男女平等にすることで多くの問題が解決。 UNFPA や UNICEF と協調して女性への暴力対策、データベース監視の整備が必要。 市民社会・NGO との協調を重視

5. **児童** Item # 66

Promotion and protection of the rights of children (A62/297, A62/319, A/C.3/62/2)

(a) promotion and protection of rights of children (A62/182, A62/209 & A62/228)

(b) Follow-up to the special session on children (A62/259)

このテーマの開始にあたって、以下の4機関から報告

がありましたが、いずれもフィールドでの検証を元に行っているだけに説得力があり、十分に加盟国・国際社会にアピールする内容でした。特にシエラレオエで家族を失い少年兵となり UNICEF のサポートを受けた Ismael Beah 君の発言が非常に印象的で、日本の若者にもこのような発言を聞く機会ができれば・・・と思ったことでした。同日の夕方に開催された unicef レセプションにも参加したのですが、ここでも同じ境遇のバレスチナ・リベリア出身者の発言がありました。

UNICEF Ms.Radhika Coomaraswamy  
Mr.Ismael Beah CRC OHCHR

要約: ...“Armed Conflict と子ども”多くの国で紛争の犠牲になっている子どもたちがいることを国際社会が認識する必要があり、この方策と援助が必要である。 紛争のない国の子どものにも関わる必要のある問題である。なぜなら、彼らは自国のリーダーとなったり、リーダーを選ぶ立場にあるから・・・。その後、 ~ に対し、14 カ国から質問あり、的確に回答・コメントが添えられました。

その後、2日半にわたって児童に関するテーマの会議が続きましたが、どの国の発言もほとんど同じでした。つまり、子どもたちはどの国でも将来への期待であり、これからの世界の安定・平和の鍵を握るということは共通認識であること。ただ、発言のスタンスが違っているのは、先進国は国際社会=UN 及び関連機関のリーダーシップを唱え、途上国は自国で成果を挙げていることを数字で説明したうえでまだまだ改善できない部分に援助を求めるという点。

要点は、

- 1) 教育(初等教育 100%、地域格差なくす)
- 2) 子どもの権利に関する法的整備
- 3) 子どもの労働禁止(教育の権利搾取など)
- 4) 健康・衛生(予防接種、HIV/AIDS・マラリア等、水・食糧-低栄養等、乳児死亡率の改善)
- 5) 紛争における子どもの被害: 少年(少女)兵、武力による身体的・精神的被害、レイプ等
- 6) 貧困(教育・労働・健康・紛争等と関連)
- 7) ストリートチルドレンや孤児(HIV/AIDS や drug、trafficking/レイプ等と関連)

それ以外に興味深い発言としては、次のような報告でした。



○サマリア: 障害児が同じ教室で教育を受けていて、10%前後の比率という報告はユニーク

○fistula: セネガルが指摘したが、これは“女性への暴力”のテーマでも数カ国が言及したのですが、要するに若年出産にこの合併が多いということで、子どもの問題

ICRC は、子どもの武装、特に少女にフォーカスを当て、40%と多く、武装させられる以外に虐待されやすいことを指摘。

このテーマの最終日に Mr. Paulo Sergio Pinheiro (*Independent Expert directing the Secretary-General's in-depth study on violence against children*) によって 2003 年から各種機関と調査チームの努力によって報告できた研究結果が報告され、その結果から各種施策の実施が緊急課題であり、そのための(既存機関のコーディネーターとして)機関設立を急ぐ。実施結果についての長期 follow-up も必要と主張されました。これに対する質疑応答では、ほとんどの国が支持し、一部の反対意見として「既存の機関を機能させることで解決できないか」とあったのですが、Pinheiro 氏の回答は、「子ども・Youth の参加方法は様々であるが、彼等の発言の意味は大きい。新設機関は既存のものとは overlap しない。既存機関だけのギャップを埋めるためである。」ということでした。

この間に、私は「社会開発」「女性の進出」「児童」について、日本の立場についての statement を行ないました。

(2007 年 10 月 22 日作成)

黒崎会長の statement はインターネットの下記 URL で確認できます。どうぞご覧ください。

<http://www.un.int/japan/jp/index.htm>

### 国連より

日本 BPW 連合会会長 黒崎伸子

第 62 回国連総会日本政府代表顧問としての任務も後半に入った 11 月 5 日(月)、BPW-International 副会長の Liz Benham からの誘いで、NGO 女性の地位委員会主催の昼食会が国連内で開催されました。通常、国連総会の公式会議は午前中が 10:00 ~ 13:00、午後は 15:00 ~ 18:00 なのですが、幸い、この日は午前中の会議がキャンセルとなったために、12:30 から

の昼食会に十分間に合って参加しました。

この昼食会は、この数年続いているものらしく、各国から国連代表大使として着任している女性大使を招いての交流会です。国連加盟国は、現在 192 カ国ですが、この中で今年現在の女性大使は、わずか 17 名しかいないと聞いて、あまりの gender gap に驚きました。昼食会に出席されたのは残念ながら 8 名だけでした。20 ほどのテーブルに、女性大使を囲んで、さまざまな NGO から参加した女性が集まり、食事をしながらお話をするのですが、なかなか面白い出会いがあって、貴重な時間でした。毎日、議場に座って、同じような statement や報告を聞いているのよりも刺激的な時間を過ごしました。

100 名以上の女性に囲まれて、数名の男性がいましたが、その一人が第 62 回国連総会議長に選ばれた Srgjan Kerim 氏(旧ユーゴスラビア・マセドニア共和国国連大使)で、パートナーとご一緒の出席で、彼女を Best part of me と行って紹介し、インターネットの写真(注 1)より圧倒的に実物が素敵な紳士でした。他にも、国連事務総長(Ban Ki-Moon 潘基文; 注 2)夫人 Ban Soon-Taek さんも出席されており、帰り際に BPW 会員 6 名と一っしょに写真をとって頂くと言うミーハーぶりも Liz と一っしょに発揮しました。

また、食事の途中の keynote speech はアメリカの女性下院議員カロリン・マロニー氏が、多くの問題をかかえる世界情勢ではあるが、これからの安定・開発のためには女性の能力開発と進出が大切かを訴えました。さすが国会議員で、話し方も人を惹きつけるものがありました。途上国の支援をもっとしなくてはいけないといいつつも、アメリカでは未だに中絶に反対する大統領がいると非難し、基本的な女性の権利をみなで主張していくこと、国際的な女性の連帯を!と訴えて、拍手喝采でした。

また、新しく着任した女性大使には“Women Who Make A Difference 2007”という賞が与えられ、それぞれが短いスピーチをするのですが、お国柄やそれぞれの性格が出て、面白い 2 時間でした。私の座ったテーブルは、カザフスタンの Mrs. Byrganym Aitimova 大使で、とても気さくで素敵な方でした。

彼女の発言の中で、NGOの力は絶対です。政府に頼っているのは、本当の現状がわからないところもあるので、NGOがいっしょになって、それぞれの分野でのデータベースを作って、女性支援をしてはどうですか・・・と提案されました。（平松前会長が今年の日本-中東女性交流でも同じ事を言われていたのを思い出しました。）

同じテーブルのお隣は、台湾出身でピアノの先生ですが、ご両親は昔、堺市に住んでいらしたこともあるというご婦人でした。他には、ロータリークラブの初の女性ガバナーになった方で、今は重症心疾患の子どもが海外から手術に来るのを支援する事業もやられていました。彼女曰く、イタリア・ローマやフィレンチェのロータリークラブは未だに女性に門戸を開いていない！と怒っていました。イタリアの男性といえば、あんなに女性に甘い言葉を囁くのに・・・、などと会話がはずんで、あっという間のお昼でした。

という訳で、堅苦しい国連の会議以外にも、さまざまな出会いに恵まれて、BPW 会員であることに感謝している Autumn in NY です。



写真1 Srjan Kerim 議長



写真2 カザフスタン大使を囲んで- BPW メンバー 1 :  
左端 Liz Behnam 氏・BPWI 副会長



写真3 カザフスタン大使と BPW メンバー 2



写真4 国連事務総長夫人 Ban Soon-Taek 氏（右から3番目）

[http://www.un.org/Pubs/chronicle/2007/webArticles/170907\\_srgjan\\_kerim.html](http://www.un.org/Pubs/chronicle/2007/webArticles/170907_srgjan_kerim.html)（注1）

<http://www.un.org/av/photo/cats/secretary-general1.html>（注2）・・・こちらに来て UN のホームページを活用していますが、就任間もない SG(事務総長)ですが、こんなにいっぱい写真集があります。

\*\*\*\*\*

**日本 BPW 連合会会員アンケート**

来年の 50 周年記念・日本 BPW 連合会総会・福岡大会に備え、全国的なアンケート調査を実施することに致しました。これは、大会2日目の朝、BPW 会員としての意思統一を図るべく会員全員参加でのパネルディスカッションを企画中で、その議論の参考にするためです。これによって、総会に出席できない方のご意見も反映される

ことになりますので、よろしくご協力をお願い致します。できるだけ、全会員の回答・100%をめざしたいと思えます。締切まで時間がありますので、ご記入をお願いいたします。アンケート用紙は各クラブの会長へ送付済みです。お問合せください。

今回のアンケート調査は、クラブの意見ではなく、会

\*\*\*\*\*

日本 BPW 連合会 50 周年記念福岡大会・  
第 43 回総会ご案内

2008年2月の福岡大会・総会の申込が迫ってまいりました。第43回全国大会は、「日本 BPW 連合会 50 周年記念福岡大会・第 43 回総会」として、下記要領により、福岡で開催することになりました。大勢の皆様にご参加をいただきますよう、ご案内申し上げます。各クラブで参加者をお取りまとめの上、別送の申込書により 12 月 31 日(月)までに、お申込み下さるようお願い申し上げます。

日 時: 2008年2月16日(土)13:00～  
17日(日)12:30

場 所: 福岡ガーデンパレス(福岡市中央区天神4  
- 8 - 15 ☎092-713-1112 )

統一テーマ: “New Dimensions of Leadership”

参加申込先: 日本 BPW 連合会 50 周年記念福岡大会・  
第 43 回総会実行委員会事務局  
〒814-0003 福岡市早良区城西 1-1-19  
立石和枝方

電話・FAX: 092-851-8153

E-mail: chise.akane@tkz.bbq.jp

参加申込締切: 2007年12月31日(月)

編集後記

広報委員会として、これから会報の作成にとりかかります。初の大仕事、頑張ります。(二)

訂正とお詫び: NL89号8ページに記載した「新クラブ誕生」の記事に誤りがございました。訂正してお詫び申し上げます。

誤: 余語三枝子さん(連合会副会長) 正: 江坂栄子さん

員個々のご意見を聞くものですので、クラブでとりまとめる必要はありません。ただ、郵送の場合は費用がかさみますので、まとめてお送りいただくか、個人で連合会会長黒崎伸子宛までご郵送下さい。

メール送信先アドレス: [nobuk9016@trad.ocn.ne.jp](mailto:nobuk9016@trad.ocn.ne.jp)

締切・郵送: 2007年12月31日メール: 2008年1月5日

大阪クラブ会員平野クニ子さん叙勲

大阪クラブ会員で元大阪府議会議員、現大阪府収用委員・箕面市社会福祉協議会会長の平野クニ子さんが永年にわたる活動と功績を認められ旭日小綬章を叙勲されました。

緊急特報！長崎で起きた性的暴行事件

11月1日に流れたニュースをご存知でしょうか。7月下旬に報道機関の女性記者にわいせつ行為をした疑いで市に調査を受けていた矢先、当事者である長崎市企画部長が自殺をしたのです。働く女性にとってセクハラは遠い存在ではありません。ましてや、今回の事件では最も恐れられている二次被害が必至です。当事者が自殺することにより、被害者に不利な話がマスコミを通して伝えられ、死に追いやった存在として非難されることも考えられます。自分が、あるいは周りの働く女性達がセクハラに遭ったとき、BPWの会員として、あるいは組織として、どう対処すればいいのでしょうか。この事件をきっかけに考えてみたいと思います。以下、実際に渦中の女性と交流のある黒崎会長の緊急メッセージです。

「NO！ 日本での性的暴力の認識は・・・」

「性的暴行の加害者が自殺！」のニュースがNYに入ったのは、10月31日夜だった。公務員管理職♂とマスコミ関係者♀という危険な状況。被害者の相談にのり、最後に話した時には告訴するか悩んでいた。加害者の死で、真実は闇に葬られてしまうが、私たち働く女性はこの問題を無視できない。性的行為が相手に与える影響を感じず、セクハラという言葉自体も軽視されがちな日本社会……。お互いの人権を尊重できる環境を確保しなければいけない。(黒崎)